

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】生き活き拠点（小さな拠点）の形成促進		

### 2 生き活き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	9	12	15	18
現況値	2市町村(2015年度末)	実績値	11	14	16	
目標値	18市町村以上	達成率	122.2%	116.7%	106.7%	
備考		達成度	5	4	4	

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・ 地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	生き活き拠点強化支援事業	<p><b>実施目的</b></p> 一定のエリア内の拠点的地域において、行政窓口や郵便局、診療所、商店など日常生活に必要なサービス機能の維持・確保を図る「生き活き拠点」（小さな拠点）の形成に向けた市町村の取組を支援する。	4
	<p><b>成果・課題</b></p> 2015年度に2市村でスタートした生き活き拠点の取組については、これまで市町村に対して制度の趣旨やメリット等を周知してきた結果、昨年度末で16市町村となり順調に推移している。今後とも制度の趣旨に沿った拠点形成が図られるように市町村を支援していく。		
平均			4.0

### 4 施策達成レベル

4.0	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

小さな拠点の取組については、県内3箇所のモデル地区において、拠点がカバーする地域の全体像や将来のビジョンを描いた「拠点形成計画」が策定され、その計画に基づく事業実施が今年度から始まっているほか、公的施設の一部を活用し、買い物支援対策として食料品や生活用品等を扱う店舗を整備、運営することで生活サービス機能を確保するなど、地域住民が主体となった具体的な事例が出てきており、施策の着実な成果が現れつつある。

### 6 今後の施策推進に向けての課題

取組を進めるためには、地域で話し合いを行う主体や体制があること、地域が動き出すための市町村の支援体制が必要である。その上で地域の将来を見据えた計画の策定については、地域の方向性を自ら決定することの重要性を認識し、市町村が住民と対話を重ねながら策定することが重要であり、県はこれらの活動を伴走的に支援する必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】ワカモノ・ヨソモノによる中山間地域等の活力創出		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	内容	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	114	127	140	150
現況値	108人(2016年4月1日)	実績値	151	134	136	
目標値	150人	達成率	132.5%	105.5%	97.1%	
備考		達成度	5	4	3	

3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	地域に飛び出せ大学生！おかやま元気！集落研究・交流事業	<p><b>実施目的</b> おかやま元気！集落における各種課題について、地域と協働しながら現状把握、課題分析を行い、課題解決や地域活性化に向けて取り組む大学の研究活動を支援し、若者の発想を生かした企画立案を求めるとともに、若者の中山間地域等への関心や愛着心を醸成する。</p> <p><b>成果・課題</b> 県内の4大学6研究室及び首都圏の2大学2研究室の合計6大学8研究室が、おかやま元気！集落の抱える地域課題の解決等に向けて、地域交流などを通じて研究活動を行った。取組としては、地域との協働により、現状把握や課題分析を行う内容が多く、今後、地域との関わりが継続され、具体的な取組に結びついていくことが期待される。</p>	4

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやまの離島で学ぶ！小中学生島体験学習事業	<p><b>実施目的</b> 県内の小中学生を対象に、島に滞在しながら、島の自然や文化、産業などを体験・学習する機会を提供することにより、離島への関心を高め、愛着心を醸成するとともに、将来、島の振興を担う人材としての芽を育てる。</p> <p><b>成果・課題</b> 市町村教育委員会等の協力のもと、目標を大きく上回る参加が得られ、多くの小中学生に島の魅力を体験してもらうことができた。2018年度から島独自の伝統や産業等について学ぶ機会を活動内容に組み込むことを必須としており、離島への関心や愛着心のさらなる醸成を図ることとする。</p>	4

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	地域おこし協力隊活用・定着促進事業	<p><b>実施目的</b> 地域の特色ある資源を活用した特産品開発や地域の魅力発信等に取り組む地域おこし協力隊の活動を支援する。</p> <p><b>成果・課題</b> 市町村内での地域おこし協力隊の導入が進み、特産品開発や交流拠点づくりなど、様々な活動が展開されている。制度発足後10年を経過し、全国の自治体でも活用が進むなか、県内の隊員数は年々増加傾向にあるものの、市町村の募集人数には届いていない状況であり、新規の協力隊獲得に苦慮している。</p>	4

教育委員会 生涯学習課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	中高生が活躍！お かやま創生を支え る人づくり推進事 業	<b>実施目的</b> 中学生・高校生等の郷土への愛着心を育み、おかやま創生を支える人づくりを推進する。  <b>成果・課題</b> 中高生が地域課題の解決やまちづくりに参画することで、中高生自身の地域に関する興味・関心を高めるとともに、地域の大人の地域づくりへの意欲の向上等につながった。SNS、教育時報、地方紙等での発信とともに、活動発表会を実施し、事業成果を普及することができた。	3
		平均	3.8

#### 4 施策達成レベル

3.2	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

各事業で関係機関と連携して積極的な周知活動を行った結果、多くの参加者が得られた。地方での若者の数が大きく減少するなかで、都市部に住む小学生から大学生の若い世代が地域に入り、地域住民と交流しながら地域の伝統文化に触れたり、地域課題の解決に取り組みながら、中山間地域等への関心や愛着心を醸成することにつながった。また、地域おこし協力隊は、特産品開発や交流拠点づくりなど地域住民とともに様々な活動を行うことにより、地域活力の原動力となっている。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

地域おこし協力隊は、制度発足から10年以上経ち、全国的に新規の隊員獲得が難しくなっているため、市町村と連携し、あらゆる機会をとらえて協力隊の制度周知を行い、効果的な応募者の発掘と着任後のフォローに努める必要がある。また、小学生から大学生が参加する事業は人気が高く参加者は多い。引き続き、施策の成果や好事例を広く周知し、参加者の幅広い募集に努める。

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【重点】集落機能の維持・強化

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○「おかやま元気!集落」の数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	11	14	17	20
現況値	53地域(2015年度末)	実績値	5	7	12	
目標値	73地域	達成率	45.5%	50%	70.6%	
備考	現況値からの当該年度末における増加目標値に対する増加累計実績	達成度	1	2	2	

### 3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	中山間地域等活力創出応援事業(集落再編支援事業)	<b>実施目的</b> 人口減少、高齢化が進む中で、すべての集落を今までどおり維持することは難しくなっている。将来に向けて地域住民の「安心な」暮らしを確保していくためには、地域住民の希望に応じて、集住や集落移転という選択肢を用意することも必要であり、こうした取組の検討等を行う市町村を支援する。  <b>成果・課題</b> 補助実績はなかったが、人口減少と高齢化がさらに進むことが予測される中で、これからの集落のあり方を考え、集落機能を維持していく仕組みづくりを幅広く議論し、現状の生活を支えるための取組を行っていくことの重要性を引き続き周知していく必要がある。	3
県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやま元気!集落活力創出事業(おかやま元気!集落活動促進支援事業)	<b>実施目的</b> 単独では集落機能の維持が困難な小規模高齢化集落等が含まれる地域において、小学校区、大字等の広域的な地域運営により、集落機能の維持・強化に取り組む地域を「おかやま元気!集落」として登録し、市町村と連携しながら、その自主的な取組を支援することで中山間地域の活力創出を図る。  <b>成果・課題</b> おかやま元気!集落の新規登録はやや低調であったが、地域住民が集落の課題や将来像を共有する中で、住民参加の意識が高まり、集落機能の維持・確保に向けた自主的な取組が進んだ。中山間地域での過疎化・高齢化は特に進んでおり、一層の集落機能の維持・確保を図る必要があることから、引き続き、新規登録の拡大に向けてねばり強く取り組んでいく。	2
平均			2.5

### 4 施策達成レベル

2.1	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

市町村において、住民が地域の課題や将来像を自ら考える地域運営組織の立ち上げの気運が高まってきている中、地域での活動に対する助言、先進地の情報提供、住民が集まる拠点の整備等、「おかやま元気!集落」制度を活用した集落機能の維持・確保に向けた自主的な取組が進みつつある。また、集落のあり方を考えるシンポジウムの開催は、集落の将来を考える契機となった。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

「おかやま元気！集落」制度の支援メニューのうち、専門家派遣、先進地の情報入手、特産品を扱う企業とのマッチングなど、金銭的支援以外のニーズが高いことから、制度活用の有効性について、地域に対して市町村を通じた丁寧な説明を行い、更なる登録を呼びかける必要がある。また、集落のあり方について、各地域で議論を進めてもらう必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【重点】移住・定住の促進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○本県への移住者数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	2,000	4,000	6,000	8,000
現況値	1,796人/年(2014,2015年度の平均値)	実績値	3,300	6,380	9,215	
目標値	8,000人(4年間累計)	達成率	165%	159.5%	153.6%	
備考		達成度	5	5	5	

3 事務事業評価

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	岡山移住1万人プロジェクト推進事業	<b>実施目的</b> 地方への移住の流れが加速し、全国の自治体による移住者の獲得競争が激しくなっている中、晴れの国おかやまでの暮らしの魅力を積極的にPRするとともに、移住希望者のニーズに丁寧に対応することにより、本県への移住・定住を一層促進する。	<b>成果・課題</b> 移住希望者のニーズが多様化するなかで、そのニーズに対応できるよう相談体制を充実させていく必要がある。	2
県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	移住・定住促進応援事業(中山間地域分を含む)	<b>実施目的</b> 移住を検討している方にとって、移住後の不安の解消やサポートが重要な課題であることから、市町村と連携し、地域と一体となった移住者受入体制の整備、拡大を図ることで、本県への一層の移住を促進する。	<b>成果・課題</b> 目標までは、若干到達できなかった。更に周知を行う。	4
県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	「いいね!地方の暮らしフェア」開催事業	<b>実施目的</b> 首都圏在住の若い世代に向けて地方の暮らしの魅力を発信し、地方への移住を促進する。	<b>成果・課題</b> 目標を上回る来場者があり、全国に情報発信を行うことができた。	5

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	岡山移住推進員（ハレクニぐらしコンシェルジュ）の配置	実施目的	移住ポータルサイト「おかやま晴れの国ぐらし」やフェイスブックなどによる本県の魅力発信や、相談会等の移住イベントでの相談対応を行う専任の推進員を配置し、効果的な事業推進を図る。	
成果・課題		移住者の相談内容も多様化しており、更にきめ細かい対応を続けていく必要がある。		

県民生活部 中山間・地域振興課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	吉備高原都市活性化パートナーシップ事業	実施目的	吉備高原都市の住区分譲の推進や都市の魅力づくりを通じて、吉備高原都市への移住・定住を促進する。	
成果・課題		都市の魅力づくりを協働で進めるための新たな検討組織を立ち上げ、現状の課題認識や活動方針の共有、利用者ニーズの把握等を行ったが、住区に分譲数は目標に至らなかった。		

平均	3.6
----	-----

#### 4 施策達成レベル

4.7	生き活き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

#### 5 施策推進による主な成果

とっとり・おかやま新橋館「移住・しごと相談コーナー」など相談窓口の充実をはかるとともに、ナイター相談会、三大都市圏での移住相談会など開催し、晴れの国おかやま暮らしの魅力を積極的に発信を行うと同時に、岡山県の魅力を体感してもらうための体感ツアー、座談会なども行い、本県の魅力をいろいろな形でPRすることによって、本県への移住・定住を促進する事ができた。

#### 6 今後の施策推進に向けての課題

全国の自治体も移住事業に注力し、移住希望者のニーズも多様化する中で、情報発信の方法や内容、相談方法の拡充など行い、潜在的な移住希望者のニーズの発掘を行うと同時に、きめ細かな情報発信を行っていく必要がある。また、移住者の受入体制の充実も引き続き取り組んでいく必要がある。

## 2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 土木部 道路建設課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【重点】地域の生活を支える道づくり

### 2 生き生き指標の進捗(達成)状況

指標名	○地域の拠点性を高めることにつながる交通難所改善箇所数	年度	2017	2018	2019	2020
		目標値	40	90	140	200
現況値	—	実績値	47	94	141	
目標値	200箇所(4年間累計)	達成率	117.5%	104.4%	100.7%	
備考		達成度	4	4	4	

### 3 事務事業評価

土木部 道路建設課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
	おかやまスタンダード道路事業	<p><b>実施目的</b> 中山間地域等の生活の中心となる拠点的地域の機能強化や「おかやま元気!集落」をはじめとした集落機能の維持・強化に取り組む地域を支援するため、「おかやまスタンダード」による、効果的・効率的な道路整備を推進し、すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善する。</p> <p><b>成果・課題</b> すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善した。引き続き、経済的で効果的かつ効率的な手法により交通難所を改善することで、拠点的地域等の機能強化や日常生活の利便性向上を図ることにより、中山間地域等の活力を創出する必要がある。</p>	4
土木部 道路建設課	中山間地域等交通難所緊急対策事業	<p><b>実施目的</b> 中山間地域等の生活の中心となる拠点的地域の機能強化や「おかやま元気!集落」をはじめとした集落機能の維持・強化に取り組む地域を支援するため、「おかやまスタンダード」による、効果的・効率的な道路整備を推進し、すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善する。</p> <p><b>成果・課題</b> すれ違いが困難な箇所や見通しの悪い交通難所を計画的に改善した。引き続き、経済的で効果的かつ効率的な手法により交通難所を改善することで、拠点的地域等の機能強化や日常生活の利便性向上を図ることにより、中山間地域等の活力を創出する必要がある。</p>	4
平均			4.0

### 4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

### 5 施策推進による主な成果

2017年度から2020年度までの4箇年で200箇所の交通難所を改善する目標を立てており、2017年度～2019年度まで累計で141箇所改善し、順調に計画を推進している。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

引き続き、「おかやまスタンダード」による、効果的かつ効率的な手法で計画的に事業を推進していく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】地域づくりへの民間参加等の促進

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 中山間・地域振興課  中山間地域協働支援センター事業	<b>実施目的</b> おかやま元気！集落等の取組支援と、地域づくりへのNPOや企業、大学など多様な主体の参加促進を図るため、「岡山県中山間地域協働支援センター」を設置・運営する。	2
	<b>成果・課題</b> 大学生等の登録ボランティアによる地域イベント等への参画を通じ、若者と地域との関係人口の拡大が図れたが、派遣地域への交通手段等の問題から、派遣件数は目標を下回った。今後は、自ら移動可能な団体等の参画を重点的に求めるなど、集落の取組を支援していく。	

事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 中山間・地域振興課  若者×空き家等活用×事業者支援事業	<b>実施目的</b> 地元の若者の働く場の確保や都市部の若者の還流のため、地域活性化を目指す意欲ある市町村と連携し、空き家等を活用した事業所等の新規開設を促進する。	2
	<b>成果・課題</b> 2019年度は、15件の問い合わせがあったものの、誘致は1件にとどまった。引き続き、本県の魅力的な立地環境や支援制度を積極的にPRし、今後の誘致に結びつけていく。	

平均	2.0
----	-----

4 施策達成レベル

2.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

中山間地域協働支援センターに委託した事業により、大学生や企業などの登録ボランティア（おかやま元気！集落応援団）の地域イベントへの派遣、特産品の販路拡大のための企業マッチング、集落活動への各種情報提供や困りごと相談などを行い、交流人口の拡大や地域の活性化を図ることができた。また、空き家等を活用した事業所の新規開設について、市町村や委託事業者との連携や広報活動の改善により、多方面から多数の問い合わせがあり、事業所誘致に向けた協議が進んでいる。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

地域が地域外の人々の新たな視点や発想を取り込み、地域の活力を創出していくため、交通手段の少ない山間部の集落へも積極的に向く前向きなNPOや企業などのボランティアの登録や派遣を一層進めていく必要がある。また、空き家等を活用した事業所開設については、ネット上でのイベントを開催するほか各都市での県人会等を活用した周知、新たな広報先の開拓などにより、制度周知と事業所誘致の活動を継続して進めていく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 中山間・地域振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】地域資源を生かした取組等の支援

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 中山間・ 地域振興課	地域活力創出推進事業	実施目的 県民局が「新晴れの国おかやま生き生きプラン」の地域別構想を踏まえ、地域の特性や資源を生かした地域産業や観光の振興などに取り組み、地域の活力創出を推進する。	3
		成果・課題 各県民局において、地域の特性や資源を生かした産業や観光の振興、地域の活性化、課題解決に向けて15の事業により地域の活力創出の推進に取り組んだ。更なる地域の活力創出の推進に向けて各県民局による主体的な取組を支援する。	

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
県民生活部 中山間・ 地域振興課	中山間地域等活力創出応援事業(集落再編支援事業を除く)	実施目的 地域の課題やニーズを踏まえ、市町村が地域づくり団体やNPO等の多様な主体と連携して取り組む地域活性化に向けた事業等を支援することで、自立発展的な地域づくりを促進する。	2
		成果・課題 特産品開発、スマートモビリティの整備、話し合いの場づくりなど、4市町による5事業に対して支援を行った。	

平均	2.5
----	-----

4 施策達成レベル

2.5	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

県民局ごとに地域の特性や資源を活かした産業・観光の振興、特産品の開発と販路開拓、地域の活性化と課題解決、鳥獣害対策など、幅広い取組を行い、地域活力創出の推進が図られた。また、スマートモビリティの整備と運用、観光資源の活用、アンケート実施による地域カルテの更新、生活の拠点としての食料品や生活用品を扱う店舗の整備など、市町村が様々な主体と連携して行う特色ある取組への支援を行い、地域の活力創出に一定の効果を生み出すことができた。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

市町村と連携し、地域の特性や資源、住民のニーズに応じた支援策（先進事例などの情報提供、専門家派遣、企業等とのマッチング、話し合いのファシリテート、施設整備への補助など）を提供し、住民が主体となって地域の活力を創出するとともに、地域で安心して暮らしていけることができる取組を継続して行っていく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 県民生活部 県民生活交通課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】地域公共交通の維持・確保

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

県民生活部 県民生活交通課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域公共交通ネットワーク再編等促進事業	実施目的 市町村等が行う、地域に適した交通手段の導入や利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努める。	成果・課題 市町村等が行う地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援することで、市町村等における地域公共交通の維持確保の将来像等の検討が進んだ。	

県民生活部 県民生活交通課	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題		事務事業総合評価
	地域公共交通維持確保支援事業	実施目的 市町村等が行う、地域に適した交通手段の導入や利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努める。	成果・課題 市町村等に対し、地域公共交通に関する検討調査や車両購入等に係る経費を補助することで、地域公共交通の維持及び確保に向けた取組が進んだ。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

市町村等が行う、地域に適した交通手段の導入や利便性の向上をはじめとする地域公共交通の維持及び確保に向けた取組を支援し、地域公共交通の維持・確保に努めた。
--

## 6 今後の施策推進に向けての課題

人口減少社会の中で、中山間地域での地域公共交通を維持・確保することは、大変困難な状況であり、今まで以上に市町村と協力して施策を推進していく必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名		担当部課室	環境文化部 自然環境課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造		
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム		
施策名	【推進】豊かな自然や優れた景観を生かした地域間交流の促進		

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

事務事業名		事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
環境文化部 自然環境課	国立公園満喫プロジェクト推進事業	実施目的 環境省が国立公園のナショナルパーク化を目指し、「国立公園満喫プロジェクト」として、蒜山地域を含む大山隠岐国立公園を選定したことに伴い、蒜山地域の自然景観を活用し、インバウンドに対応できる環境整備や人材の育成を図り、訪日客等の誘致促進を図る。	4
		成果・課題 大山隠岐国立公園内において、蒜山地域の自然をより楽しんでもらうための登山道の整備を行うとともに、トイレの洋式化を実施した。 インバウンドに対応するため、案内板の多言語化や外国語の案内補助資料の作成、コミュニケーション研修会を実施した。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

真庭市蒜山エリアにおいて、関係自治体や団体の協力を得ながら、インバウンドに対応した施設整備をするとともに、外国語の案内補助資料の作成及びコミュニケーション研修会の実施により、インバウンドの受け入れを支援した。

6 今後の施策推進に向けての課題

新型コロナウイルスの感染防止に努めながら、インバウンドの誘致に向けて、さらなる施設整備を行うとともに、作成した案内補助資料に基づく支援やガイドのさらなる育成を図る必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 農林水産部 農村振興課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】頑張る地域農林水産業の応援

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
農林水産部 農村振興課	直接支払交付金	実施目的 農業の生産条件が不利な中山間地域等(5法指定地域及び知事指定の特認地域)において、農業生産活動等を通じて耕作放棄地(荒廃農地)の発生を防止し、水源かん養等の多面的機能の維持増進を図る。	4
		成果・課題 県下25市町村において、1,347協定、12,195haで本対策の取組が行われ、適切な農業生産活動等を通じて、耕作放棄地(荒廃農地)の発生防止、公益的な多面的機能の発揮、将来につながる地域農業の体制づくりが図られた。	
農林水産部 農村振興課	中山間地域“食と農村”の交流促進事業	実施目的 中山間地域において、農産物直売所と農家民宿や体験農園などの農村観光資源が連携し、地域が一体となって消費者を呼び込む取組を支援することにより、地域の新たな魅力や価値を創出し、活力ある農村づくりを促進する。	4
		成果・課題 吉備中央町の高校生を対象にしたモニターツアーの実施や関西圏への情報発信、真庭市の直売所を対象にした研修会の実施などの取組を支援するとともに、“食と農村”講座等を開催し、受講した延べ173人の人材育成を進めることができた。	
農林水産部 農政企画課	中山間地域等生活・交流基盤整備推進事業(農林)	実施目的 高度経済成長期以降、集中的に整備した施設の老朽化が進行しており、安全性の確保が大変重要になっている。中山間地域における県管理施設の今後増加が見込まれる維持修繕費について、国庫補助の対象とならない小規模な修繕を効果的に行い、農林水産施設の適切な管理に取り組むことを目的としている。	3
		成果・課題 中山間地域等における土地改良施設、治山施設、漁港施設の維持修繕を行った。中山間地域における県管理施設の老朽化対策については地域からの要望も増加しており、優先順位を付け、効率的に実施していく必要がある。	
平均			3.7

4 施策達成レベル

3.7	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

## 5 施策推進による主な成果

直接支払交付金を活用した農業生産活動等が1,347協定、12,195haで行われ、2017年度から109haの取組面積が増加するなど、耕作放棄地（荒廃農地）の発生防止による公益的な多面的機能の発揮が維持増進された。

また、新たなアグリビジネスに取り組む人材を育成するセミナーや講座の開催により、延べ173人を育成するとともに、高校生を対象としたモニターツアーの実施や直売所マーケティング研修会の開催など、2地区での取組を支援した。

併せて、県が管理する農林水産施設の適切な老朽化対策が進められた。

## 6 今後の施策推進に向けての課題

担い手不足や高齢化の進行に対応し、地域ぐるみでの農業生産活動等の取組を推進するとともに、地域を牽引する人材を育成し、直売所を拠点とした農家の所得確保や地域資源を活用した消費者との交流などを通じて、中山間地域の活性化と耕作放棄地（荒廃農地）の発生防止を促進する必要がある。

2020年度 施策評価シート(2019年度実績)

1 評価施策名	担当部課室 土木部 道路整備課
重点戦略	Ⅲ 安心して豊かさが実感できる地域の創造
戦略プログラム	中山間地域等活力創出プログラム
施策名	【推進】道の駅の地域拠点化に向けた取組

2 生き生き指標の進捗(達成)状況

3 事務事業評価

	事務事業名	事務事業の実施目的及び成果・課題	事務事業総合評価
土木部 道路整備課	道の駅	実施目的 道の駅設置者である市町村と協力して道の駅としてふさわしい良好なサービスを提供することにより、道路利用者の利便性及び快適性の向上並びに地域の振興に寄与し、地域の拠点施設として道の駅の機能を強化する。	4
		成果・課題 2019年度は、やかげ宿(仮称)の用地買収や造成工事に加え、「道の駅」トイレリニューアル事業に取り組むことで、設置者である市町村と連携し、道の駅の機能を強化した。	

平均	4.0
----	-----

4 施策達成レベル

4.0	生き生き指標達成度と事務事業達成レベルを4:1で加味して施策達成レベルを算出
-----	--

5 施策推進による主な成果

誰もが安心して快適に使用することができるよう道の駅のトイレをリニューアルすることで、道路利用者の利便性及び快適性を向上させるとともに、市町村が地域拠点の形成に取り組む環境を整えた。

6 今後の施策推進に向けての課題

供用開始から20年以上を経過した道の駅が多く、施設の老朽化が進んでいることが課題となっている。